

大阪医科大学学報

第56号 平成15年5月
(インターネット版)



初夏 膳を賑はす筈

目 次

医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式	2
最終講義	5
規程関係	6
平成15年度収支予算について・主なる事業報告 ...	15
寄付金	17
学位記授与	18
平成15年度科学研究費補助金内定	22
学術奨励金等について	25
入学試験及び国家試験状況	25
職場紹介	26
学内行事	28
市民公開講座	30
会議・行事予定	31
附属病院関係	33
保健管理室からのお知らせ	34
俳句	38

医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

平成15年度 医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

医学部医学科および大学院医学研究科の入学宣誓式が、4月3日（木）午後2時から臨床第1講堂において挙行され、医学部医学科101名（男子63名・女子38名）大学院医学研究科62名が入学しました。



学長告辞

大阪医科大学 学長 島田眞久

新入生諸君ご入学おめでとう！ 保護者の皆さまご子弟のご入学おめでとうございます。また、本日は法人役員の方々にもご臨席賜り厚く御礼申し上げます。今年は、諸君たちを歓迎するように桜が丁度満開の時期を迎えており何よりの吉兆と存じます。

まず、最初に言っておきたいことは、諸君が今日あるのは、日頃、生活の面倒をいただいたご両親を始め、学校の先生方、友人、クラブの諸先輩方、その他多くの方々の支援によるものであったことをまず感謝すべきであり、決して自分一人の努力によるものでなかったことを肝に銘じておいていただきたいということです。

さて、これから過ごされる6年間というのは、新入生にとってはとても長く感じられるでしょうが、卒業生から見ますとあっと言う間の6年

間であったということです。もっとやりたかったこと、勉強しておきたかったことが心残りという学生が毎年多くおられます。本学の1期生は90歳を越えられまだ元気な先輩が大勢おられます。どなたとお話ししましても、学生時代のことを昨日のように話されます。それほど、諸君たちが経験するこの青春期の6年間は終生良き思い出として強く記憶に残ることになります。この、6年間に有意義に過ごすための条件を3つ話し学長から諸君へのメッセージとします。

まず、一つは、これからどんな医者を目指すのか早く目標を決めていただきたい。どんな医者を志すにせよ、在学6年間の間に是非、TOEFL 550点以上かTOEIC 730点以上の英語力を身に付けておいていただきたい。そうすれば、5～6年生になれば英米の病院の短期臨床実習が可能となる外、卒業後も海外留学のための各種助成を受けるのに非常に有利になり、世界を舞台に活躍できる場が確保されることになります。

本学がどのような医者を養成するために昭和

2年に我が国最初の5年制高等医学専門学校として開学したかご存知でしょうか。それは一に建学の精神にあります。当時、日本は人口増加に悩んでおり、その解決策として移民を考え実行しました。海外に開拓団として送るとき医療の担い手としての医師を養成することを目的に本学は設立されたわけであります。校歌に出ております、嗚呼南冥の空遠く、かのアマゾンの岸の花、はた崑崙かゴビの原は、開拓団と共に医療の担い手として遠く南米ブラジル、東南アジア、中国に雄飛することを歌っております。時が流れ、現在では、グローバル社会で活躍できる良医を養成することが建学の精神となっております。諸君はこれに答える医者となるために勉学を励むのか、あるいは、自分でどういう医者になろうとするのか早く目標を定めその目標に向かって突き進んでいただきたい。人は目標を失った時、不平、不満を言うと言われております。諸君の口から不平、不満が出たとき、それは諸君が目標を失っている時であります。

二つ目は、心に余裕、ゆとりを持っていただきたい。卒業までに夢中になれるような趣味を是非ひとつ身につけていただきたい。そのためには、クラブに入り活動するのがもっとも手取り早い方法であります。諸君が卒業後、臨床をやる限り諸君の周りによってくる人は病める人たちであって、健康な人はまず来られません。その時に、心をリフレッシュできるのが、趣味をもっていることでもあります。これにより、「潤いある人生」を過ごすことができます。

三つ目は、毎日朝飯を食べて大学に来ていただきたい。朝食を摂るということは、規則正し

い生活ができているということでもあります。つまり、健康の第一条件は、まず、ご飯をおいしく食べられるということでもあります。新入生の学外合宿時と学年の中ごろにあります公衆衛生実習時でそれぞれ測定しております体力トレーニングとアンケート調査によるデータを取っておりますが、朝食を毎回摂っている学生とそうでない欠食学生とでは有意に体力差が見られました。また、同時に規則正しい生活習慣が身についているかどうかにも差が見られました。体力がなければ、心にゆとりができません。心にゆとりがなければ、目的、目標を失いがちになります。以上のことを心にしっかりと刻み付け悔いのない青春を送っていただきたい。

最後となりましたが、大学院の諸君にはこの4年間で研究者として独立できる、基本的知識・技能・態度を身に付けられ、課程修了までに国際社会に通用する論文を一本仕上げてください。諸君が研究される専門分野には世界的にどのような雑誌がノミネートされどのような評価を得ているのか、図書館に行けば簡単に知ることができます。出来上がった研究をできるだけ上位の国際雑誌に投稿して、世界の専門領域の学者の評価を得るように挑戦していただきたいと存じます。そうすれば、次なる仕事に向けて、大きな自信がつくこととなります。今年、大学院定員54名を超す62名もの若き院生が入学されました。諸君たちの手で、大学の持つ使命である学問の府をよりいっそう高められることを期待いたします。

平成15年4月3日

医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

平成15年度 入学者

(医学部医学科)

秋山幸太郎	恩田紗緒里	小見山麻紀	谷口 由記	西田 裕介	松木 智宏	横井 裕之
阿部 真保	駕田 修史	酒井 聡至	田吹 邦雄	西村 尚子	松代 卓也	吉川 大和
荒井 裕介	神村 真人	榊原 杏美	長久 博子	野田 和司	松永圭以子	和田 慶太
石井真梨子	岸田 夏枝	坂谷 彰彦	辻 真理子	野山 知美	松永 仁綜	和田裕美子
和泉 賢一	北井 宏美	酒谷 徹	辻中 聖也	橋本 頼和	眞野福太郎	渡邊 真也
市原 登	木下 史子	佐々木彩恵子	寺師 江美	埴岡 裕介	丸尾 英未	
岩谷 修子	木下 満	里村 宜紀	富岡 淳	浜野 大輔	三上 高司	
上野 健史	木村 良紀	佐野 達志	内藤 優佳	原田 仁	南 幸一郎	
植村 優	葛谷 実和	式田 康人	中川 浩輔	巴里 彰吾	三宅 崇文	
内堀 裕昭	香西 博之	品川 友親	長澤紗詠子	東山 央	三輪 裕子	
宇野伊津美	光野 重芝	島田 亮	長富 俊孝	藤井健一郎	宗元 紗和	
浦上 藍子	河野由佳子	鈴鹿 隆保	中西 麻菜	藤田 愛子	村上 友彦	
大島衣里子	古形 祐平	鈴木 康太	中埜 亜希	二村 元	村西耕太郎	
大村 咲	小寺ひとみ	高橋 秀明	中野真由子	邊見雄二郎	矢野 冬馬	
岡田 英晶	後藤 絢子	瀧本 裕基	永野雄一朗	本庄 紋佳	山田 一人	
岡橋 一憲	五島 悠太	田中 聡	西川 知宏	前田 詩	山脇 和美	(101名)

(大学院医学研究科)

朝隈 光弘	梅川 俊義	洪 真紀	田中 俊充	中川 大輔	藤村智恵子	向井 規子
阿部 洋介	エリム・ファクシヤル	古武 彌嗣	田中 秀一	二村 吉継	藤原 新也	森 久仁子
新井 康泰	大谷 一弘	小林 崇俊	田辺 敏明	林 歩	古林 圭一	森 拓美
有城久美子	大槻 周平	篠原 和幸	田村 滋規	原田 知明	堀之内 崇	山上 高生
池田奈々子	奥田 信昭	渋谷 孝裕	趙 明珠	平野すずえ	松谷 崇弘	山口 裕之
泉屋 隆	紀 貴之	嶋 洋明	塚田 敏	廣瀬 潤	三浦 清子	山本 直宗
稲元 輝生	岸 勘太	曾山 明子	月山 芙蓉	福田真樹子	三木 義仁	吉村 勝弘
乾 崇樹	岸田 賢治	大黒恵理子	土居 温	藤田 能久	三倉 文子	渡邊 久
茨木 利彦	金 徹文	高橋 猛	土居 芳充	藤立 康貴	三好 昌子	(62名)

最終講義

本年3月末日をもって定年を迎えられた、胸部外科学講座 佐々木 進次郎 教授の最終講義が、臨床第1講堂において下記のとおり行われました。

<胸部外科学講座 佐々木 進次郎 教授>

1. 日時 3月12日(水) 14:00~15:00
1. 演題 『心臓外科40年を振り返って』

大阪医科大学における心臓外科は1955年(昭和30年)に第2外科(麻田栄教授)において心臓心膜癒着術が行われたことに始まる。以後、第2外科および胸部外科で行われた心臓・大血管手術は5953例である。退職にあたり、これら手術例を中心に過去四十数年間における心臓外科の歩みをふり返ってみる。

1) 先天性心疾患手術例: 1546例で、非開心術273例中PDA177例、ファロー四徴症76例、その他20例であった。初期にはPDA結紮術後の再開通が問題となった。開心術1273例ではASDが537例と最も多く、次いでVSD484例であった。ファロー四徴症の根治術は76例で、手術の成功率が安定したのは1967年(昭和42年)の後半であった。右室流出路狭窄の十分な解除と術後管理の改善に負うものであった。

2) 弁膜症手術例: 1379例で、弁置換術854例(MVR 415, AVR 324, 2.3VR 105)であった。純型MRに可及的に形成術を行い、自己弁の温存に努めた。弁形成術は弁置換に比べ術後心機能の保持に有利であり、血栓塞栓症の頻度が低かった。1960年代に弁置換術を始めた当初は低カリウム血症による術後不整脈が多かった。

3) 冠動脈疾患手術例: バイパス手術は1974年に開始し、全例1482例である。1985年からグラフトの長期開存率の向上を目指して動脈グラフトを導入し、現在では95%の症例に動脈を用いている。バイパス手術の死亡率は4%で、本邦の平均的な成績である。

4) 大動脈瘤手術例: 1975年以降に306例(胸部112、腹部128、解離66)の手術例がある。腹部大動脈瘤の手術は良好であるが、胸部大動脈

瘤は尚手術死亡率が高い。最近ステント内挿型の人工血管を用い、成績の向上に努めている。

5) 心臓ペースメーカー植込み: 1966年から開始し、996例に達した。教室では早期から「生理的ペーシング」に着目し、実験的、臨床的な研究を行い、このペーシング法が非生理的ペーシングに比し血行動態的にも、心筋代謝面からも優れることを報告して来た。

心臓外科医のみならず外科医は手術手技に習熟するための努力が必要であるが、手術は万能ではない。これからの心臓外科医は他の学問分野との協力や新しいテクノロジーの導入などの先見性が要求されることになると思われる。



規程関係

規程制定

規程が次のとおり制定されました。

学校法人大阪医科大学職務発明取扱規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人大阪医科大学（以下「本学」という。）における学術研究の振興とその成果の社会的活用を図るために、本学の職員の職務発明等に係る知的所有権の取扱について必要な事項を定める。

(職員の範囲)

第2条 この規程における「職員」とは、次の各号に掲げる者をいう。

- 一 学校法人大阪医科大学就業規則第40条の規定に基づき雇用された者
- 二 前号以外の者で、本学に籍を有する者
- 三 その他任用にあたって、発明等の取扱について契約がなされている者

(用語の定義)

第3条 この規程における用語の意義は、次の各号に掲げるところによる。

- 一 「職務発明等」とは職員が行った発明等であって、その内容が本学の業務の範囲に属するもののうち、当該発明等をするに至った行為が、本学における当該職員の現在又は過去の職務に属するものをいう。
- 二 「知的所有権」とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権及びプログラム等の著作権その他これらに準ずる権利並びに以上の権利を受ける権利をいう。

(権利の帰属)

第4条 職員の職務発明等に係る知的所有権は、学校法人大阪医科大学服務規程第6条に基づき本学に帰属するものとする。

(発明等の届出)

第5条 職員は、職務上の発明等を行った場合は、直ちに書面（様式1）をもって、学長を通じ理事長に届出なければならない。

(職務発明等の認定及び権利の承継)

第6条 前条の規定により届出があったときは、第15条に規定する発明委員会において、当該発明等が職務発明等に該当するかどうかを認定し、職務発明等であると認定したときは、理事長は当該発明等について知的所有権を受ける権利を本学に承継するかどうかの決定を行うものとする。

(任意移譲による承継)

第7条 理事長は、職員が行った研究により生じた発明等（職務発明等を除く。）について知的所有権の譲渡の申し出があったときは、当該知的所有権を本学に承継するかどうかの決定を行うもの

とする。

- 2 前項の決定の手続きについては、前条の規定を準用する。

（知的所有権の譲渡）

第8条 理事長は、前2条の規定により知的所有権を本学に承継すると決定したときは、承継後に大阪TLO等に譲渡の手続き（様式3）を行うことができるものとする。

- 2 譲渡の手続き方法については、別にこれを定める。

（発明者の出願）

第9条 発明者は、第6条の規定に基づき理事長が職務発明等でないと認定し、又は知的所有権を受け権利を承継しないと決定した後でなければ出願を行ってはならない。

ただし、緊急に出願を行う必要があると発明委員会委員長が判断した場合はこの限りではない。

（決定等の通知）

第10条 理事長は、第6条又は第7条の規定による認定又は決定を行ったときは、その旨を速やかに発明者に通知するものとする。

（譲渡の義務）

第11条 理事長が、第6条又は第7条の規定により知的所有権を本学に承継することを決定したときは、発明者は当該知的所有権を本学に譲渡するための手続き（様式2）を行わねばならない。

- 2 前項の場合において、発明者がすでに出願の手続きを終えているときは、当該発明者に対して当該出願に要した費用を本学が負担するものとする。

（報奨金）

第12条 本学は、報奨金の支払基準を定め、その基準に基づき発明者に対して報奨金を支払う。

- 2 報奨金支払基準及び報奨金額は、別にこれを定める。

（共同発明者に対する報奨金）

第13条 前条の報奨金を受ける権利を有する発明者が二人以上あるときは、それぞれの持分に応じた額を支払う。

- 2 学外研究機関等との共同発明の場合は、本学と学外研究機関等との持分割合に応じ、発明者に対して報奨金を支払う。

（退職又は死亡したときの報奨金）

第14条 報奨金を受ける権利は、発明者が転職し、又は退職した後も存続する。

- 2 前項の権利を有する発明者が死亡したときは、その相続人が当該権利を承継する。

（発明委員会）

第15条 発明等に関する事項を審議するため、発明委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- 一 学長
- 二 附属病院長
- 三 当該発明者の属する所属の長

規程関係

- 四 発明等に係る専門知識を有する者で学長が指名する者 3名
- 五 総務部長
- 3 委員長は学長をもって充てる。
- 4 委員会は委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって議決する。
- 5 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。
 - 一 職務発明等の審査に関する事項
 - 二 知的所有権の帰属に関する事項
 - 三 発明者の異議申立に関する事項
 - 四 この規程の改正及び運用に関すること
 - 五 その他委員長が必要と認める事項

(異議申立)

- 第16条** 発明者は、第6条又は第7条の規定による理事長の認定又は決定に対して異議あるときは、第10条の通知を受けた日から起算して2週間以内に理事長に書面をもって異議申立をすることができる。
- 2 理事長は、前項による異議申立を受けたときは、発明委員会の議を経て、その結果について異議申立を受けた日から起算して1ヶ月以内に通知しなければならない。

(秘密の保持)

- 第17条** 発明者、発明委員会委員その他当該発明等に関係のある者は、発明等の内容等の事項について出願するまでの間、その秘密を守らなければならない。

(事務)

- 第18条** 発明等に関する事務は、総務部研究協力課において行う。

(実施細則)

- 第19条** この規程を実施するため、必要事項は別に定める。

(規程の改廃)

- 第20条** この規程の改廃は、発明委員会の起案により、教授会の審議を経て理事会の承認をもって行う。

附 則

この規程は、平成15年1月21日より施行する。

学校法人大阪医科大学厚生労働科学研究費貸付規程

(目的)

- 第1条** この規程は、本学の教育職員が厚生労働科学研究費補助金（以下補助金という。）を受け入れて行う研究に関し、当該補助金が入金されるまでの間の円滑な研究の遂行に役立てるために行う研究費の一部貸付について、必要な事項を定める。

(要件)

第2条 研究費の貸付は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす場合に行うことができる。

- 一 当該研究が補助金の対象として内定していること。
- 二 補助金の管理及び経理の事務並びに補助金の受領を、主任研究者又は分担研究者（以下研究者という。）が本学へ委任していること。
- 三 貸付を必要とする相当の理由があること。

(貸付金限度額)

第3条 貸付金の限度額は、予算の範囲内において、1000万円又は当該補助金内定額の2分の1に相当する額のいずれか低い額を上限とする。

(貸付金額の単位)

第4条 貸付金額の単位は10万円を単位とする。

(貸付利率)

第5条 貸付金は無利子とする。

(借入申込)

第6条 借入を受けようとする研究者は、厚生労働科学研究費借入申込書（別紙様式第1号）を借入を希望する月の前月の末日までに理事長に提出するものとする。

(連帯保証人)

第7条 借入を受けようとする研究者は、連帯保証人を1名立てなければならない。
なお、この連帯保証人は、本学の教育職員に限るものとする。

(貸付決定)

第8条 理事長は厚生労働科学研究費借入申込書を受理したときは、直ちにこれを審査の上貸付の可否、金額等を決定し、当該借入申込者に厚生労働科学研究費貸付決定通知書（別紙様式第2号）を交付するものとする。

(貸付金の交付)

第9条 厚生労働科学研究費貸付交付決定通知書を受けた研究者は、厚生労働科学研究費借用証書（別紙様式第3号）を速やかに理事長に提出しなければならない。
2 貸付金の交付は、原則として厚生労働科学研究費借用証書を受領した月の月末に、当該貸付金の管理のために開設された預金口座に振込むこととする。

(貸付金の返済)

第10条 当該補助金の交付があったときは、貸付金と対等額で相殺されたものとし、本学は当該補助金管理口座より返済を受けるものとする。
但し、当該補助金の交付前の一括返済は、これを妨げない。
2 理事長は、貸付金が返済されたときは、厚生労働科学研究費借用証書を借入研究者に返還するものとする。

規程関係

(即時返済)

第11条 借入をした研究者が債務の完済前に次の各号の一に該当したときは、残存債務をただちに一括して返済しなければならない。

- 一 借入をした研究者が退職したとき
- 二 留学・出向等の理由により当該研究を中止又は中断したとき

2 前項の場合において、相当な理由があると認められるときは、返済を一時猶予することができる。

なお、返済の一時猶予を希望する研究者は、厚生労働科学研究費返済猶予願（別紙様式第4号）を理事長宛提出しなければならない。

(担当部署)

第12条 この貸付業務の受付窓口を総務部研究協力課とし、それ以降の貸付手続、返済手続については総務部財務課とする。

(その他)

第13条 この規程に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度別に定める。

(改 廃)

第14条 この規程の改廃は、理事会の承認をもって行うものとする。

附 則

この規程は、平成15年4月1日より施行する。

学校法人大阪医科大学物流センター規程

(目 的)

第1条 学校法人大阪医科大学における物品の調達及び管理並びに運営が、豊富な情報の下、品質が保証され、かつ適正な価格で調達されることを目的として、大阪医科大学に物流センター（以下「センター」という。）を設置する。

(業 務)

第2条 センターでは、次の業務を行う。

- 一 大学及び附属病院の物品支出の予算適合性の審査に関すること。
- 二 大学及び附属病院の予算の編成に関する資料及び情報収集と予算要望書資料作成に関すること。
- 三 大学及び附属病院で使用する物品の調達及び管理並びに運営に関すること。
- 四 物品に係る委託業務の管理運営に関すること。
- 五 センター運営のためのシステム構築に係る企画及び立案に関すること。
- 六 センター運営に係る手順書の作成に関すること。
- 七 物品に係る各種委員会に関すること。
- 八 その他、物品に係る業務全般に関わること。

(組織及び職務)

第3条 第2条の業務を遂行するため、センターに当面次の職員を置く。

- 一 センター長 1名(兼任)
 - 二 センター参事 1名(専任又は兼任)
 - 三 センター長補佐 1名(専任又は兼任)
 - 四 センター課長補佐 1名(専任又は兼任)
 - 五 センター主任 1名(専任又は兼任)
 - 六 センター職員 8名(専任又は兼任)
 - 七 その他必要な非常勤職員 若干名
- 2 センター長は、業務が円滑に行われるようセンター組織を整備し、監督する。
 - 3 センター参事並びにセンター長補佐は、業務が円滑に行われるようにセンター運営の企画を行い、管理する。
 - 4 センター課長補佐並びに主任は、センター長補佐を補佐し、業務を遂行する。
 - 5 センター職員は、長の指示に従い、センターの業務を遂行する。

(運営委員会)

第4条 センターの適正な調達及び管理並びに運営を図るため、物流センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を設ける。

(運営委員会の協議事項)

第5条 運営委員会は、次の事項を協議する。

- 一 物品の調達方法に関する基本方針。
- 二 新規物品の調達に係る意見具申。
- 三 センターの管理運営に関する意見具申。
- 四 その他センター内の業務に関する重要事項。
- 五 必要に応じて下部委員会を設置し、広く議論を行う。

(運営委員会の組織)

第6条 運営委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 常務理事
- 二 病院長
- 三 学長
- 四 病院事務部長
- 五 看護部長
- 六 センター長
- 七 センター長補佐
- 八 センター課長補佐
- 九 その他センター長が必要と認めた者

(運営委員会の委員長)

第7条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

(運営委員会の開催・決議)

規程関係

第8条 運営委員会は、委員長が招集し、その議長となる。運営委員会は、運営委員の3分の2以上の出席により成立し、協議事項は出席者の過半数を持って決する。可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第9条 運営委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

(その他)

第10条 この規程の定めるものの他に、センターの業務に関し、必要な事項はセンター長が別に定める。

第11条 この規程の改廃は、理事会の承認をもって行うものとする。

附 則 この規程は、平成15年4月1日から施行する。

以 上

規程改正

学則等が次のとおり改正されました。

大阪医科大学学則（関係条文新旧対照表）

新	旧
<p>(単位の計算方法)</p> <p>第19条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するものとし、次の基準により計算するものとする。</p> <p>一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>二 チュートリアルについては、20時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>三 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>四 実験、実習及び実技については45時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 教育上必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、講義、チュートリアル及び演習については15時間から30時間、実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲の時間の授業をもって1単位とすることができる。</p>	<p>(単位の計算方法)</p> <p>第19条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するものとし、次の基準により計算するものとする。</p> <p>一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>三 実験、実習及び実技については45時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 教育上必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、講義及び演習については15時間から30時間、実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲の時間の授業をもって1単位とすることができる。</p>
<p>附則</p> <p><u>この改正は、平成15年4月1日から施行する。</u></p> <p><u>ただし、平成14年度以前から在学する者については、各学年次の前年度までの履修科目単位について改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。</u></p>	

規程関係

大阪医科大学診療助手規程（関係条文新旧対照表）

新	旧
<p>題 名 大阪医科大学助手（任期付）規程</p>	<p>題 名 大阪医科大学診療助手規程</p>
<p>（目 的） 第一条 この規程は、大阪医科大学の教育、研究、診療充実のために任用される助手（任期付）について、その適正な運用を図ることを目的とする。 2 助手（任期付）は大学教育職員とする。</p>	<p>（目 的） 第一条 この規程は、大阪医科大学の教育、研究、診療充実のために任用される診療助手について、その適正な運用を図ることを目的とする。</p>
<p>（任 用） 第二条 助手（任期付）の任用は、教授会の議を経て理事長が行う。 第三条 削除</p>	<p>（任 用） 第二条 診療助手の任用は病院長の推薦に基づき、教授会の承認を得て理事長が行う。 （定 員） 第三条 診療助手の定員は、教育職員の助手の定員一人に対して二人以内とする。</p>
<p>（任 期） 第四条 助手（任期付）の雇用期間は1年以内とする。ただし、通算5年を超えない範囲内で更新することができる。</p>	<p>（契 約） 第四条 診療助手の雇用期間は1年以内とする。ただし、通算5年を超えない範囲内で更新することができる。</p>
<p>（服 務） 第五条 助手（任期付）は、学校法人大阪医科大学就業規則及び諸規則を遵守し、誠実に職務に従事しなければならない。</p>	<p>（服 務） 第五条 診療助手は、学校法人大阪医科大学就業規則及び諸規則を遵守し、誠実に職務に従事しなければならない。</p>
<p>（給与等） 第六条 助手（任期付）に対する給与については、就業規則第39条を準用する。</p>	<p>（給与等） 第六条 診療助手に対して本給、家族手当、住宅手当、通勤手当を支給する。本給の額は別に定める。 2 前項の給与のほか臨時に手当を支払うことができる</p>
<p>第七条 削除</p>	<p>（給与規則の準用） 第七条 前条に定めるもののほか、診療助手の給与等については、給与規則第五条～第七条、第十二条～第十九条を準用する。</p>
<p>（その他） 第八条 この規程の改廃は、理事会の承認をもって行うものとする。</p>	<p>（その他） 第八条 この規程の改廃は、理事会の承認をもって行うものとする。</p>
<p>附則 この規程は、平成13年2月27日から施行する。 この改正は、平成15年4月1日から施行する。</p>	<p>附則 この規程は、平成13年2月27日から施行する。</p>

平成15年度 収支予算について

総務部財務課

<平成15年度予算の編成方針について>

平成15年度予算は、本年3月29日の評議員会の審議を経て、同日開催の理事会で承認決定されました。その基本的な考え方は第1に昨年度と同様過去の経緯にとらわれずゼロからのスタートを心がけること、第2に中長期の計画に則った予算組みをすること、第3に予算の重点配分をすること、第4に人件費については前年度予算同額以内におさめること、第5に諸経費については前年度予算の2%減に圧縮することを念頭におきました。

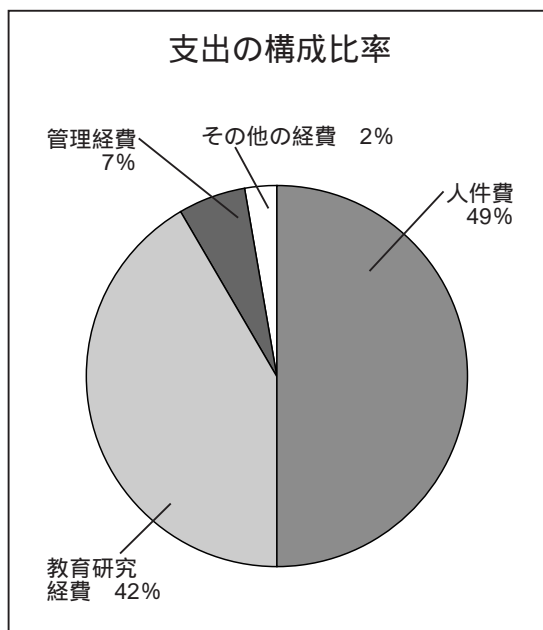
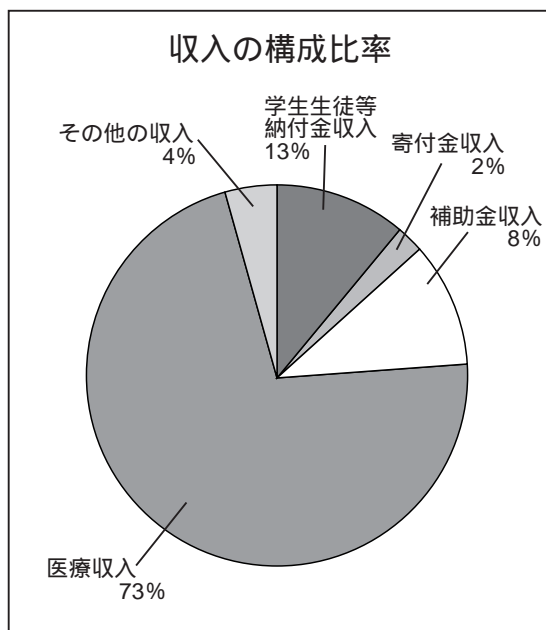
なお、病院7号館にかかる諸経費については総額42億円の内14億円を15年度分として予算措置をしております。

平成15年度 主なる事業計画

平成15年度の主なる事業計画（事業予算各3000万円以上）は次のとおりです。

（事業内容）

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 1) 附属病院熱源及び外来棟1、2階システム空調機改修工事 | 4) マルチスライスCT 一式 |
| 2) 総合研究棟：機器共同利用センター（3階）改修工事 | 5) オーダリングシステム 一式 |
| 3) 病院7号館建築工事 | 6) 物流関係整備費用 |



平成15年度 収支予算について

平成15年度 収支予算

消費収支予算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	平成15年度 予算額	平成14年度 予算額	増減()	科 目	平成15年度 予算額	平成14年度 予算額	増減()
学生生徒等納付金収入	3,279,410	3,227,240	52,170	人 件 費	12,873,233	12,994,326	121,093
手数料収入	71,132	72,465	1,333	教育研究経費	10,935,339	10,846,977	88,362
寄付金収入	587,146	672,540	85,394	管理経費	1,733,484	1,634,167	99,317
補助金収入	2,121,212	2,277,831	156,619	借入金等利息	69,282	83,198	13,916
資産運用収入	249,308	280,240	30,932	資産処分差額	29,470	39,084	9,614
事業収入	398,467	303,822	94,645	徴収不能額	13,481	14,854	1,373
医療収入	18,515,039	18,219,883	295,156	予備費	300,000	300,000	0
雑収入	333,375	574,593	241,218				
帰属収入合計	25,555,089	25,628,614	73,525	消費支出の部合計	25,954,289	25,912,606	41,683
基本金組入額合計	1,658,670	1,372,199	286,471				
消費収入の部合計	23,896,419	24,256,415	359,996	当年度消費支出超過額	2,057,870	1,656,191	401,679

資金収支予算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	平成15年度 予算額	平成14年度 予算額	増減()	科 目	平成15年度 予算額	平成14年度 予算額	増減()
学生生徒等納付金収入	3,279,410	3,227,240	52,170	人 件 費	12,801,683	12,640,614	161,069
手数料収入	71,132	72,465	1,333	教育研究経費	9,727,244	9,650,972	76,272
寄付金収入	563,517	646,440	82,923	管理経費	1,596,422	1,497,043	99,379
補助金収入	2,121,212	2,277,831	156,619	借入金等利息支出	69,282	83,198	13,916
資産運用収入	249,308	280,240	30,932	借入金等返済支出	408,364	2,258,361	1,849,997
資産売却収入	0	0	0	施設関係支出	1,680,222	243,804	1,436,418
事業収入	398,467	303,822	94,645	設備関係支出	896,094	1,138,257	242,163
医療収入	18,515,039	18,219,883	295,156	資産運用支出	54,000	76,320	22,320
雑収入	333,375	574,593	241,218	その他の支出	2,482,943	3,333,618	850,675
借入金等収入	500,000	500,000	0	予備費	300,000	300,000	0
前受金収入	950,103	969,713	19,610				
その他の収入	5,127,432	4,319,301	808,131				
資金収入調整勘定	4,261,526	4,348,963	87,437	資金支出調整勘定	1,921,376	2,538,607	617,231
前年度繰越支払資金	8,334,164	8,813,148	478,984	次年度繰越支払資金	8,086,755	7,172,133	914,622
収入の部合計	36,181,633	35,855,713	325,920	支出の部合計	36,181,633	35,855,713	325,920

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支予算上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

記念継続事業（新病棟建設）に係る寄付金の応募状況について

区分	項目	寄付金	
		件数	総額（円）
	会社等（個人・一般含む）	85	69,271,840
	仁泉会会員（大阪医科大学卒業生）	102	23,360,000
	白友会会員（看護専門学校卒業生）	51	2,748,000
	学生保護者	13	3,700,000
	本法人役員・評議員	16	7,165,500
	教職員（名誉教授・教職員OB含む）	1,545	21,095,000
	計	1,812	127,340,340

平成15年3月31日現在

寄付金申込者

平成15年1月16日から3月31日までの間に寄付金申込者は、3件、金額1,060,000円です。
ここに寄付金申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

（順不同・敬称略）

仁泉会会員 1件 金額 50,000円

勝村 浩三

本法人役員・評議員 1件 金額 1,000,000円

谷村 和治

教職員 1件 金額 10,000円

門田 雅人

寄付金募集についてのお願い

記念継続事業（新病棟（7号館）の建設）を本年3月から着工予定しております。完成後は、教育・研究・診療の水準を格段に向上させると共に、地域医療の基幹病院としての役割を更に強固にするものであります。

この事業には、多額の建設資金を必要とし、その資金確保には、全学挙げて努力しておりますが、本学のおかれている現状では、学生の保護者、仁泉会会員（本学卒業生）、白友会会員（看護専門学校卒業生）、本学関係者はもとより各界、各位に、広くご支援を仰がなければならないのが実情であります。

つきましては、現下厳しい経済情勢の折、何卒本学の意をお汲みとり戴き、格別のご支援を賜わりますよう伏して、お願い申し上げます。

募金目標額： 10億円

募金期間： 個人（特定公益増進法人寄付金）
法人（ " " ） } 平成14年1月1日～平成18年12月31日

法人（受配者指定寄付金） 「受配者指定寄付金」の受入承認後から2年間

寄付金額： 個人1口1万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

法人1口10万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

当寄付金に対しましては、所得税または、法人税の減免措置が受けられます。

募金に関する問い合わせ先：大阪医科大学財務課 TEL 072-684-6344（直通）

学位記授与

平成14年度学位記授与〔大学院医学研究科課程修了者〕

大学院医学研究科課程修了による学位論文申請者に対する審査の結果、平成15年3月19日をもって20名が合格し、3月24日（月）の学部卒業式と合同で学位記授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第647号	芥川 茂	オステオポンチンによる腫瘍血管新生の誘導
甲第648号	イード・ナビル Eid, Nabil A. S. M.	Involvement of Fas system and active caspases in apoptotic signalling in testicular germ cells of ethanol-treated rats (エタノール投与ラットの精巣生殖細胞におけるFas系および活性化カスパーゼが関与するアポトーシス・シグナル経路について)
甲第649号	市場 厚志	The effect of medical collateral ligament insufficiency on the reconstructed anterior cruciate ligament A study in the rabbit (膝関節内側副靭帯不全が再建前十字靭帯に与える影響 家兎による実験的研究)
甲第650号	伊泊 裕子	乳房外Paget病におけるhuman epidermal growth factor receptor 2 (HER2) 蛋白の過剰発現について
甲第651号	岩本 充彦	Prognostic value of tumor-infiltrating dendritic cells expressing CD83 in human breast carcinomas (乳癌組織におけるCD83陽性腫瘍内浸潤樹状細胞の予後規定因子としての意義)
甲第652号	勝村 浩三	Spontaneous establishment of a novel human cell line derived from lens epithelium (自律的に樹立されたヒト水晶体上皮細胞株)
甲第653号	阪口 真人	Inhibitory mechanism daphnodorins for human chymase (ヒトキマーゼに対するダフノドリン類の阻害組織)
甲第654号	高巻 京子	Asphyxia and diuretic-induced changes in the Ca ²⁺ concentration of endolymph (無呼吸負荷および利尿剤投与による蝸牛内リンパ液カルシウム濃度の変化)
甲第655号	常深孝太郎	Lengthy suppression of vascular proliferation by a chymase inhibitor in dog grafted veins (キマーゼ阻害薬によるイヌ静脈グラフトの新生内膜肥厚の長期抑制効果)
甲第656号	土居 ゆみ	Central nociceptive role of prostacyclin (IP) receptor induced by peripheral inflammation (炎症性刺激に対する中枢におけるプロスタサイクリンの役割)
甲第657号	富田 誠司	Biomechanical evaluation of kyphoplasty and vertebroplasty with calcium phosphate cement in simulated osteoporotic compression fracture (骨粗鬆症性椎体圧迫骨折モデルに対するkyphoplastyとvertebroplastyにおけるリン酸カルシウム骨セメントの補強効果)
甲第658号	柳楽 知義	ラット気管線毛上皮細胞におけるアセチルコリンで活性化された線毛運動の低張負荷による修飾

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第659号	野村 幸哉	Repetitive preischemic infusion of phosphodiesterase III inhibitor olprinone elicits cardioprotective effects in the failing heart after myocardial infarction (心筋梗塞後不全心に対するホスホジエステラーゼ 阻害薬(オルプリノン)の虚血前反復投与は心筋保護効果を励起する)
甲第660号	細井 慶太	Terbutaline-induced triphasic changes in volume of rat alveolar type II cells: role of cAMP (ターベタリンはラット肺胞 型細胞の容積を3相性に变化させる:cAMPの役割)
甲第661号	増田 裕	Ultrastructural study on cytotoxic effects of cyclosporine A in spermiogenesis in rats (シクロスポリンAのラット精子形成における細胞毒性に関する電顕的研究)
甲第662号	三重野繁敏	Potent adenylate cyclase agonist forskolin restores myoprotective effects of ischemic preconditioning in rat hearts after myocardial infarction (アデニレートサイクラーゼ刺激薬フォルスコリンは梗塞後ラット心筋における ischemic preconditioning 現象を回復させる)
甲第663号	村谷 忠利	Characterization of Nociceptin/Orphanin FQ-induced pain responses by the Novel Receptor Antagonist N-(4-amino-2-methylquinolin-6-yl)-2-(4-ethylphenoxy)methyl benzamide monohydrochloride (新規ノシセプチン受容体拮抗薬N-(4-amino-2-methylquinolin-6-yl)-2-(4-ethylphenoxy)methyl benzamide monohydrochloride (JTC-801)によるノシセプチン/オーファニンFQの誘発痛覚反応性の検討)
甲第664号	山下 能毅	Influence of severe endometriosis on gene expression of vascular endothelial growth factor and interleukin-6 in granulosa cells from patients undergoing controlled ovarian hyperstimulation for in vitro fertilization embryo transfer (体外受精治療時の卵巣顆粒膜細胞におけるVEGFおよびIL-6遺伝子発現への子宮内膜症の影響)
甲第665号	吉井 康欣	Expression of thrombomodulin in human aortic smooth muscle cells with special references to atherosclerotic lesion types and age differences (ヒト大動脈平滑筋細胞におけるトロンボモジュリンの発現:粥状硬化症の病型および年齢との関連)
甲第666号	吉田 正隆	Intra-arterial bone marrow cell transplantation induces angiogenesis in rat hindlimb ischemia (ラット下肢虚血モデルに対する経動脈的骨髄細胞移植による血管新生効果の検討)

学位記授与

〔論文提出による合格者〕

所定の審査が行われた結果、平成15年3月19日をもって16名が合格し、3月24日(月)午前10時から第2会議室において学長及び指導教授出席の下、授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第941号	早崎 華	Microautoradiographic studies of glucose uptake in skeletal muscle fibers at rest (マイクロオートラジオグラフィーによる安静時骨格筋線維のグルコース取込みに関する研究)
乙第942号	時津 浩輔	非小細胞肺癌に対するピノレルピン術前気管支動脈注入療法による近接的抗腫瘍効果
乙第943号	上野 信之	The effect of sildenafil on electrostimulation-induced erection in the rat model (ラットの電気刺激勃起モデルにおけるシルデナフィルの影響)
乙第944号	山崎 久	Changes of fiber ratio and diameter in rabbit skeletal muscle during limb lengthening (脚延長時におけるウサギ骨格筋の筋線維分布と直径の変化)
乙第945号	鈴木 丈二	Effects of long-term monotherapy with eplerenone, a novel aldosterone blocker, on progression of left ventricular dysfunction and remodeling in dogs with heart failure (イヌ心不全モデルにおけるアルドステロン遮断薬 eplerenone 長期単独投与による左室機能不全およびリモデリングに対する抑制効果)
乙第946号	辻井 英治	In situ visualization of the intracellular Ca^{2+} dynamics at the border of the acute myocardial infarct (急性心筋梗塞境界部における心筋細胞内カルシウム動態の生体位での可視化)
乙第947号	得丸 智弘	ラットにおける体外循環の基礎的検討 完全体外循環ならびに部分体外循環モデルの作製とその評価
乙第948号	黒田 有子	Vascular cell adhesion molecule-1 as a biochemical marker of left ventricular mass in the patients with hypertension (VCAM-1は本態性高血圧症患者において心肥大の生化学的マーカーとして有用である)
乙第949号	野田 哲朗	Long-term outcome in 306 males with alcoholism (男性アルコール症者306名の長期予後)
乙第950号	徳原 孝洋	Clinical significance of CD151 gene expression in nonsmall cell in lung cancer (非小細胞肺癌におけるCD151遺伝子発現の臨床的意義)
乙第951号	田中 馨	成人心臓血管外科手術後の肺高血圧症および低酸素血症性呼吸不全に対する低濃度一酸化窒素吸入療法の効果

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第952号	戸成 智子	Forearm hyperemia is a better marker than carotid intimamedia thickness or ankle-brachial index for Japanese patients with coronary artery disease under 65 (65歳未満の日本人男性患者における冠動脈疾患評価の指標として前腕動脈反応充血は頸動脈内中膜厚や下肢 上肢血圧比より有用である)
乙第953号	川勝 幹和	Plasma nitrate/nitrite concentration in healthy population and patients with diabetes mellitus Relationships with gender, aging and diabetic complications (健康人および糖尿病患者における血中NO ₃ / NO ₂ 濃度性差、年齢、糖尿病合併症との関連)
乙第954号	二宮 栄司	The Activation of Caspase-3 and DNA Fragmentation in B Cells Phagocytosed by Macrophages (B細胞はマクロファージにより貪食されるとcaspase-3が活性化し、DNAの断片化が生じる)
乙第955号	川畑 拓也	A novel substance purified from <i>Perilla frutescens</i> Britton inhibits an early stage of HIV-1 replication without blocking viral adsorption (アオジソ葉から精製された新規物質はHIV-1複製過程の初期段階を、ウイルスの吸着を阻止することなしに抑制する)
乙第956号	岩崎 善毅	Establishment and Characterization of a Human Epstein-Barr Virus-Associated Gastric Carcinoma in SCID Mice (SCIDマウスにおけるヒト由来Epstein-barrウイルス関連胃癌株の樹立とその特徴に関する研究)

平成15年度 科学研究費補助金内定について

平成15年度科学研究費補助金内定について

平成14年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した158件の研究計画に対し、本年度は55件、総額97,600千円の内定がありました。

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
特定領域研究	ピリドキサル酵素のプロトン移動過程の解明に基づくコンポジット触媒の開発	医化学 助教授	林 秀行	* 8,400
特定領域研究	大腸菌定常期におけるリボソームの構造と動態	物理学 助教授	和田 明	3,100
基盤研究(B) 一般	抗癌剤感受性増強を誘導する遺伝子群(EPR-1, dCK, TP)による治療研究	一般・消化器外科学 教授	谷川 允彦	* 3,300
基盤研究(B) 一般	キマーゼの心血管疾患における病態生理学的役割の解明	薬理学 教授	宮崎 瑞夫	* 3,300
基盤研究(B) 一般	劇症1型糖尿病の発症機序	内科学 教授	花房 俊昭	* 4,800
基盤研究(B) 一般	骨髄細胞および遺伝子治療を用いた血管新生療法の開発	脳神経外科学 助教授	宮武 伸一	* 3,200
基盤研究(B) 一般	高性能RFHR・2D・PAGEによる一細胞一分子プロテオーム解析	物理学 助教授	和田 明	5,400
基盤研究(B) 一般	加齢黄斑変性における細胞外型 superoxide dismutase の役割	眼科学 教授	池田 恒彦	6,700
基盤研究(C) 一般	尿路上皮癌モデルを用いた浸潤・転移・血管新生に関するヘパラーゼの研究	泌尿器科学 教授	勝岡 洋治	* 500
基盤研究(C) 一般	蝸牛血流調節におけるNOの役割	耳鼻咽喉科学 講師	萩森 伸一	* 500
基盤研究(C) 一般	非定型精神病の分子遺伝学的研究	神経精神医学 学内講師	康 純	* 700
基盤研究(C) 一般	肝臓移植における脂肪肝移植の成績向上に向けての研究	一般・消化器外科学 講師	林 道廣	* 500
基盤研究(C) 一般	共焦点レーザー生体顕微鏡を用いた痛みの研究	麻酔科学 助手	黒崎 明子	* 800
基盤研究(C) 一般	地域の自立高齢者における脳循環代謝機能と日常生活活動能力、抑うつ症状との関連	衛生学・公衆衛生学 助教授	渡邊 丈眞	* 800
基盤研究(C) 一般	児童虐待診断の指標となる情報伝達物質の検索に関する研究	法医学 助教授	西尾 元	* 800
基盤研究(C) 一般	起立性調節障害のタイプ別発症機序解明ならびに包括的治療開発に関する臨床研究	小児科学助 教授	田中 英高	* 600
基盤研究(C) 一般	睡眠中に出現する異常運動に起因する睡眠障害の診断治療および分子遺伝学に関する研究	神経精神医学 助教授	黒田 健治	* 1,300
基盤研究(C) 一般	一酸化窒素による睡眠及び意識制御の可能性について	神経精神医学 講師	松村 人志	* 1,600

平成15年度 科学研究費補助金内定について

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
基盤研究(C) 一般	加齢による虚血耐性の変化と細胞周期制御蛋白の関与についての基礎的研究	外科共通 診療助手	中井 康成	* 500
基盤研究(C) 一般	リアルタイム蛍光分光解析と蛍光二重標識による脳腫瘍細胞分布の術中同定法の確立	脳神経外科学 教授	黒岩 敏彦	* 1,000
基盤研究(C) 一般	ヒト子宮内膜におけるbc1-2転写因子	解剖学 教授	大槻 勝紀	* 1,300
基盤研究(C) 一般	頭頸部扁平上皮癌におけるシクロオキシゲナーゼ-2の発現と増殖および転移活性	耳鼻咽喉科学 助教授	河田 了	* 800
基盤研究(C) 一般	修飾蛋白質(亜硫酸化、ニトロソ化他)の精密構造と生成過程の解明、臨床検査への応用	病態検査学 教授	清水 章	* 1,300
基盤研究(C) 一般	糖尿病性網膜症における硝子体中血管新生制御因子の発現プロテオミクス	病態検査学 講師	中西 豊文	* 1,300
基盤研究(C) 一般	ヒスチジノールリン酸アミノ基転移酵素の構造と機能	生化学領域 助手	水口 博之	* 1,000
基盤研究(C) 一般	センサー型腫瘍切除ロボットの開発 - がん特異的光ファイバー型腫瘍センサーの応用 -	脳神経外科学 講師	梶本 宜永	2,400
基盤研究(C) 一般	言語発達の臨床的指標に関する検討 - ネットワーク上での診断の実用化に向けて	耳鼻咽喉科学 診療助教授	東川 雅彦	2,500
基盤研究(C) 一般	酵母IscSタンパク質(Nfs1p)の硫黄供給酵素としての多機能な振舞い	医化学 助手	中井 由実	1,700
基盤研究(C) 一般	脂溶性物質が隣導管細胞における陰イオンチャンネルに与える影響に関する研究	生理学 学内講師	相馬 義郎	2,000
基盤研究(C) 一般	心不全進展過程の心臓再構築におけるキマーゼの役割	薬理学 講師	金 徳男	2,300
基盤研究(C) 一般	在宅生活自立高齢者の閉じこもりに関する縦断的研究	衛生学・公衆衛生学 講師	渡辺 美鈴	1,500
基盤研究(C) 一般	消化吸収機能からみた糖尿病と高脂血症の病態生理に関する研究	内科学 診療助教授	島本 史夫	2,200
基盤研究(C) 一般	2つの血管新生抑制遺伝子と自殺遺伝子との融合遺伝子による乳癌遺伝子治療効果の増強	解剖学 助教授	柴田 雅朗	3,200
基盤研究(C) 一般	大腸癌におけるサバイビンの機能解析と遺伝子治療への展開	一般・消化器外科学 助手	山本 哲久	2,600
基盤研究(C) 一般	重症肺高血圧症に対するeNOS遺伝子導入骨髄細胞の経静脈的投与による再生型治療	胸部外科学 学内講師	堀本 仁士	900
基盤研究(C) 一般	難治性婦人科癌における血管新生と分子標的治療	産婦人科学 診療助教授	植田 政嗣	1,500
基盤研究(C) 一般	半規管内リンパ液Ca ²⁺ およびpHのホメオスタシス	耳鼻咽喉科学 学内講師	荒木 倫利	400
萌芽研究	細胞外マトリックス分解酵素活性の新しい組織内検出方法の確立とその応用	病理学 助教授	岡田 仁克	* 700
萌芽研究	病原細菌が保有する逆転写酵素に関する研究	微生物学 教授	佐野 浩一	* 700

平成15年度 科学研究費補助金内定について

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
萌芽研究	動脈硬化および臓器移植後血管狭窄に対する特異的複製可能型ウイルスによる遺伝子治療	脳神経外科学 助教授	宮武 伸一	* 1,400
若手研究(B)	レチノイン酸耐性の急性前骨髄性白血病における転写共役因子の役割について	小児科学 助手	瀧谷 公隆	* 900
若手研究(B)	胃癌微小リンパ節転移検出に用いる新規遺伝子マーカー単離に関する研究	一般・消化器外科学 助手	馬淵 秀明	* 700
若手研究(B)	覚醒下ラット勃起モデルを用いた高血圧自然発症ラット(SHR)の勃起機能について	泌尿器科学 助手	岩本 勇作	* 800
若手研究(B)	IL-2レセプター鎖を中心とした胎盤形成の免疫学的制御機構について	解剖学 助手	日下部 健	* 800
若手研究(B)	血管新生を分子標的とした婦人科癌の発育・進展機序とその制御	産婦人科学 学内講師	寺井 義人	* 1,400
若手研究(B)	INF- KOマウスでの脱毛とINF- および同種移植による発毛の分子機構の解析	形成外科学 助手	大宮 由香	* 1,000
若手研究(B)	ソフトイオン化質量分析を用いた異常ヘモグロビンスクリーニング法の確立	病態検査学 学内講師	宮崎 彩子	2,000
若手研究(B)	神経発生分化因子による神経芽細胞腫株の分化誘導機構の解析	小児科学 助手	久野 友子	1,500
若手研究(B)	新生児期肺における脂質代謝機構の解析	周産期センター 助手	金 漢錫	3,300
若手研究(B)	非定型抗精神病薬が統合失調症の神経学的徴候、予後、QOLに与える影響について	中央検査部 助手	森本 一成	600
若手研究(B)	大腸癌に対する腹腔鏡下手術が生体に及ぼす侵襲についての検討	一般・消化器外科学 助手	西口 完二	1,300
若手研究(B)	ベル麻痺患者の中耳洗浄液からの単純ヘルペスウイルスの検出と定量	耳鼻咽喉科学 助手	北原 民雄	300
若手研究(B)	細胞外基質代謝からみたミューラー細胞の生物学的作用	眼科学 助手	植木 麻理	1,200
若手研究(B)	自家培養真皮のサイトカイン産生に関する実験的研究および小児全身熱傷後瘢痕への応用	形成外科学 助手	藤森 靖	1,100
若手研究(B)	顎口腔領域のMRIにおける金属アーチファクトの出現様相に関する基礎的研究	口腔外科学 講師	有吉 靖則	1,200
合計	55 件			97,600

*印は前年度以前からの継続分

学術奨励金等について 平成15年度 入学試験及び国家試験状況

学術奨励金等

平成15年度 共同利用研究 [京都大学原子炉実験所]

研究課題	所属・職・氏名
熱外中性子を用いた悪性脳腫瘍に対する非開頭中性子捕捉療法の臨床的研究	脳神経外科学教室 教授・黒岩 敏彦
トランスフェリン、リポソームを利用した悪性グリオーマに対する硼素中性子捕捉療法	脳神経外科学教室 教授・黒岩 敏彦

高齢者の福祉および健康づくりに関する研究・調査助成 (平成14年度)[財団法人 大坂ガスグループ福祉財団]

研究課題	所属・職・氏名	助成金額
生活自立高齢者の社会活動性低下に関連する大脳循環代謝機能に関する研究	衛生学・公衆衛生学教室 助教授 渡邊 丈眞	25万円

2003年度日中医学協会共同研究等助成事業 (調査・共同研究助成)[財団法人 日中医学協会]

研究課題	所属・職・氏名	助成金額
婦人科腫瘍における天龍合剤の治療効果について - 基礎的および臨床的研究	第1解剖学教室 教授 大槻勝紀	100万円

平成15年度 入学試験及び国家試験状況

平成15年度入学試験状況

(単位:人)

	志願者数	受験者数	入学者数
医学部 医学科	1118	997	101
大学院医学研究科	63	63	62

医師国家試験状況

	総数	新卒	既卒
受験者数(人)	105	91	14
合格者数(人)	95	86	9
合格率(%)	90.5	94.5	64.3

(全国平均 90.3%、私大平均 88.4%)

(単位:人)

		志願者数	受験者数	入学者数	
看護専門学校	第一看護学科	一般	188	165	33
		推薦	12	12	9
	第二看護学科	一般	99	97	29
		推薦	11	10	10
	計		310	284	81

看護師国家試験状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第一看護学科	41	41	100.0
第二看護学科	45	45	100.0
計	86	86	100.0

(全国平均 92.6%、近畿平均 92.7%)

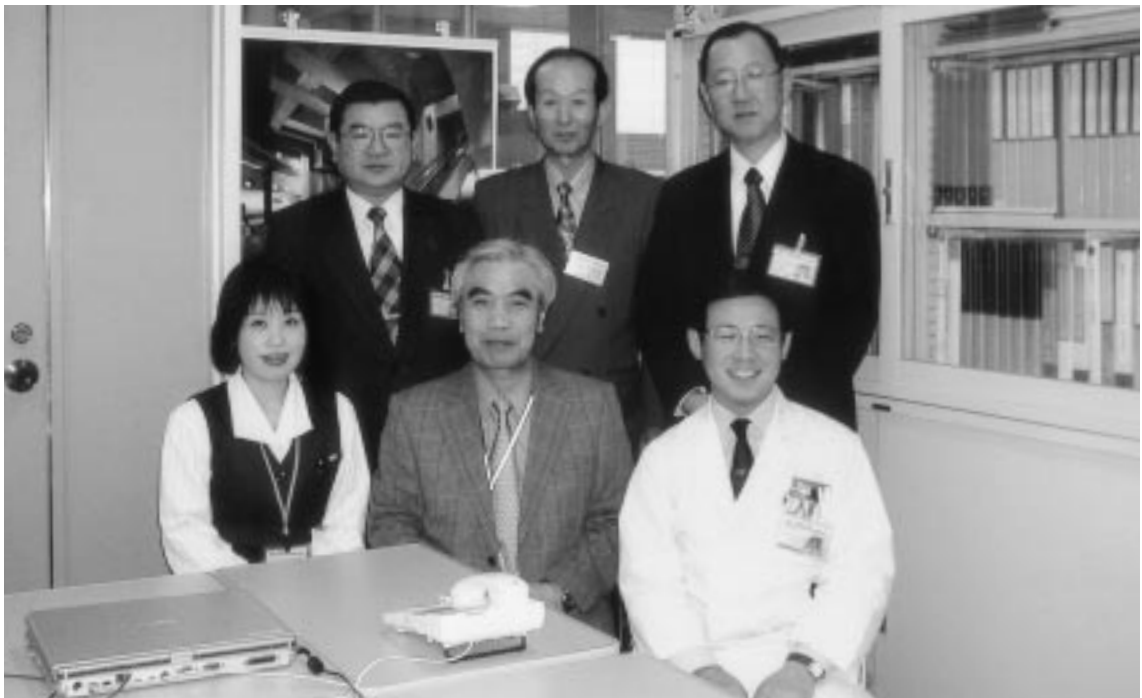
職場紹介

法人企画室

室長代理 岩本 暢泰

2001年(平成13年)11月16日付で、学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の改正が行われて、それまでの総務部企画課が、新たに部組織の『法人企画室』に再編成され、法人直轄の機関として発足しました。現在のスタッフは、筆者、岩尾 憲明(室長補佐：兼務)、三宅 努(室付：兼務)、磯田 洋三(室付：兼務)、出野 潔、久川 多恵子の総勢6名で日常業務を遂行しています。業務内容は、事務分掌規程では、1)法人の事業計画書の立案、作成に関すること 2)法人の組織及び職制の改善計画の計画立案に関すること 3)法人の管理運営等に係わる調査に関すること 4)法人の経営計画の管理遂行に関すること 5)法人の関連会社の管理・運営に関すること 6)その他、法人の企画・調整に係る事務に関すること などとなっていますが、一言で言えば、

法人全般の中長期の組織・人事・事業(建物設備を含む)・予算を企画立案管理遂行する部門であります。現在、精力的に取り組んでいる業務として『建物・設備に関すること』と『仕組みや組織に関すること』が挙げられます。『建物・設備に関すること』では、代表的なものに「新総合棟(病院7号館)の建設」がありますが、昨年旧建物の取壊しが完了し、近々着工できるよう設計や価格の詰めを行っているところです。またこれまでに「LDセンター」「大阪検疫所高槻予防接種センター」「さわらぎキャンパス(移転)」「機器共同利用センター」「医療安全対策室」「研修医室(センター)」「物流センター」「病院医療相談部：患者相談窓口・資料閲覧室」「自己血採血室」「化学療法センター：ミキシング室」など多くの施設の整備・開設・設置を手がけてきましたが、その都度、関係各位のご理解ご協



力を賜りまして、ほぼ予定通り計画を進めることができました。さらに今後は、「新講義実習棟（PA会館）建設」「看護専門学校の新築」「歴史資料館の準備」などの計画が予定されています。これに伴い、容積率（敷地面積に対する延べ床面積の割合）の問題があるため、その緩和（引き上げ）要請を行政当局へ申請しているところですが、申請が認められますと将来の施設充実に有用な延べ床面積の展開が期待できます。

設 備面では、各担当部署と連携しながら「CRシステムの導入（デジタル加算の収益）」「画像参照システムの導入」「ギガビットネットワークの敷設（補助金の獲得）」「検査医療機器・システムの導入」「病院熱源改修工事」などを手がけてきました。これからもこうした設備関係の投資は、特に大学・病院内の「跡地利用計画」などにおいて色々と必要であり、当室も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

ま た収益に繋がる事業として、関連会社（株）西泉への管理運営支援がありますが、西泉は常に患者様や本学職員の皆様方へのサービス提供のために営業活動を行っております。最近の実績では「売店運営」「デジタルイメージングセンターの開設」「新幹線の切符販売」「マンション住宅情報の提供」などが挙げられます。これからも同社のタイムリーな営業活動を支援していきたいと思っています。



新講義棟（PA会館）外観パース：南東面

方、『仕組みや組織に関すること』では、職員に対する「人事考課」の仕組みを導入し、教員についても「自己評価」の仕組みの導入を検討しています。これらの評価を生かす「給与体系の改定」についても検討しています。組織では新たに「物流センター」が設置され、医療材料など物の流れの効率化に貢献できますので、今後の運営にご協力下さいますようお願い致します。また、しっかりとした経営管理を行うために、指標となる「診療科別収支」の把握にも検討を重ねています。それから「法人の組織」や「権限の委譲」をどうすべきかといった問題にも取り組んでいます。

法 人企画室は、今後も大学および附属病院における課題など多方面にわたって積極的に取り組んでいく所存であります。本学を取り巻く環境が大きく変化するなかで、本学も大きく変わっていかねばなりません。その尖兵となるように全員頑張っていますので、どうぞよろしくご支援をお願い申し上げます。



新総合棟（病院7号館）外観パース：南東面

平成14年度 卒業証書・学位記授与式



医学部卒業生記念撮影

医学部医学科および大学院医学研究科の卒業証書学位記授与式が、3月24日（月）午後2時から、臨床第1講堂において挙行政され、111名の卒業生・修了生達はそれぞれの思い出を胸に母校から巣立っていきました。

医学部医学科卒業生（第52回） 91名
 大学院医学研究科修了生 20名



学位記授与（医学部医学科）



学位記授与（大学院医学研究科）

平成14年度 卒業生

（医学部医学科）

飯田 真大	岡田 俊彦	坂本 理之	田中 智人	仁科 尚人	福嶋亜紀子	宮村 昌利
井川佳世恵	奥野 恵子	相良 彩	田中 智大	塗 隆志	藤川沙恵子	宗光 俊博
石田 千春	小野万里子	篠塚 知宏	田中 良道	子曰 克宣	藤田 修一	宗本 将嗣
井畑 峰紀	柿本 一城	関島 龍治	鶴原 昭史	能田 貞治	藤田 淳子	村上 智江
今川 幸宏	加藤 勘明	宋 由伽	東道 公人	長谷田文孝	藤田 洋一	柳瀬 聡美
井元 章	鎌田 航也	曾和万紀子	戸谷 隆一	秦 健一郎	堀田 敏弘	山名 秀典
上田 祐華	神崎 洋光	高橋 賢吉	中泉 敦子	花岡 潤	前川 卓史	山根 一志
内本 晋也	貴賓院永稔	高橋 睦	中江 悠	濱野聡一郎	前田 裕子	山本 誠士
宇野 維華	木村 恭子	高山 和宣	中沢 大悟	久 毅	牧野恵津子	横山 和武
産賀 真	元 善弘	田口久美子	中辻 文彦	平田 裕二	丸本 浩平	吉田 周造
黄地 浩子	小嶋 美希	竹原 康介	中坊亜由美	平山 尚	岬 美穂	吉間 陽子
扇谷 大輔	小寺 智子	武部 健	中山 聖子	深尾 丞	宮崎信一郎	依田有紀子
大竹 克昌	近藤 絵里	田中 篤志	西田 司	福井 美保	宮原 淳一	渡邊 香子

（91名）

（大学院医学研究科）

芥川 茂	伊泊 裕子	阪口 真人	土居 ゆみ	野村 幸哉	三重野繁敏	吉井 康欣
Eid, Nabil A. S.M	岩本 充彦	高巻 京子	富田 誠司	細井 慶太	村谷 忠利	吉田 正隆
市場 厚志	勝村 浩三	常深孝太郎	柳楽 知義	増田 裕	山下 能毅	

（20名）

安全管理の体制確保に関する特別講演会



安全管理の体制確保に関する特別講演会が3月1日(土)午後1時30分から、臨床第一講堂において日本大学医学部 社会医学講座法医学部門 押田 茂實 教授をお迎えし、教職員約230名の出席のもと開催されました。

榎林医療安全対策室長の開会挨拶に続き、下記の通り特別講演が行われました。

[特別講演]

「医療事故と具体的なリスクマネジメント」

日本大学医学部 社会医学講座法医学部門
教授 押田 茂實

平成14年度看護専門学校卒業式



看護専門学校の卒業式が3月7日(金)午後1時から、臨床第一講堂において挙行され、第一・第二看護学科計86名の卒業生が巣立っていきました。

第一看護学科(第18回)41名

第二看護学科(第34回)45名

平成15年度看護専門学校入学式



看護専門学校入学式が4月9日(水)午後1時から、臨床第1講堂において挙行され、第一看護学科42名、第二看護学科40名、計82名が入学しました

新入職員辞令交付式



4月1日(火)午前9時30分から、臨床第1講堂において、同日付け新規採用者130名に対し、辞令が交付されました。

(内訳)

事務職員	5名
専任教員	1名
技術職員	1名
看護職員	123名

第8回新入生学外合宿実施



パソコン実習

平成15年度医学部新入生に対する学外合宿が京都レクリエーションセンター「亀岡ハイツ」において、新入生101名と教職員約30名の参加のもと、4月4日（金）～6日（日）の2泊3日にわたり実施されました。

新入生達は、グループ討論、ビデオ鑑賞、コンピュータ演習、救命処置体験学習、懇親会などの多彩な日程の中、互いに親睦を深めました。



リレー



亀岡ハイツロビーにて

平成15年度 市民公開講座

平成15年度市民公開講座が下記のとおり開催されました。

[第 1 回]

4月19日（土） 午後2時～
臨床第1講堂

『尿失禁 その原因と対策』
講師 本学 泌尿器科
教授 勝岡 洋治

『お薬について』
講師 附属病院薬剤部



主要会議とその主な議題

2月1日から4月30日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(2月18日)

審議事項

1. 学校法人大阪医科大学厚生労働科学研究費貸付規程の制定について

報告事項

1. 日本私立医科大学協会理事会報告
2. 南港ポートタウン病院用地について
3. 施設計画事業本部報告
4. 経営専門委員会報告
5. その他(学事・病院関係報告)

(3月11日)

審議事項

1. 顧問の委嘱について
2. 大阪医科大学学則の一部改正について

報告事項

1. 施設計画事業本部報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他(学事・病院関係報告)

(3月29日・その1)

報告事項

1. 平成14年度資金収支決算見込報告書について

審議事項

1. 平成15年度予算について(平成15年度主なる事業計画含む)
2. 理事の選任について
3. 評議員の選任について
4. 顧問の委嘱について

(3月29日・その2)

審議事項

1. 理事の選任について
2. 監事の選任について
3. 評議員の選任について

報告事項

1. 日本私立大学連盟及び日本私立医科大学協会報告
2. その他(学事・病院関係事項報告)

(4月15日)

審議事項

1. 顧問の委嘱について
2. 学校法人大阪医科大学物流センター規程の制定について
3. 大阪医科大学診療助手規程の改正について

報告事項

1. 日本私立医科大学協会理事会報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他(担当理事運営会議・学事・看護専門学校関係事項報告)

[評議員会]

(3月29日)

報告事項

1. 平成14年度資金収支決算見込報告書について

審議事項

1. 平成15年度予算について(平成15年度主なる事業計画含む)
2. 理事の選出について
3. 監事の選任について
4. 評議員の選任について

報告事項

2. 新総合棟(病院7号館) 建築について
3. その他(学長・病院長・看護専門学校長報告)

[教授会]

(2月5日)

1. 人事に関する件
2. 学長予定者選考規程改正委員会委員長の委嘱について
3. 学長辞任請求規程改正委員会委員長の委嘱について
4. 臨床教育教授及び臨床教育助教授の選出に関する件
5. 各種委員会委員の改選に関する件
6. 教育センターの設置に関する件

(2月21日)

1. 人事に関する件
2. 教授選考に関する件
3. 各センター長、各種委員会委員の投票結果に関する件
4. その他

- 1) 学長予定者選挙に関する件

(3月5日)

会 議・行事予定

1. 人事に関する件
 2. 機器共同利用センター長の投票結果に関する件
 3. その他
 - 1) 学則の一部変更に関する件
 - 2) ヒト遺伝子解析研究実施のための個人識別情報管理者について
- (3月19日)
1. 人事に関する件
 2. 名誉教授称号授与に関する件
 3. 各種委員会委員の改選に関する件
 4. その他
 - 1) 診療助手規程改正について
 - 2) 教員定員の管理方法の変更について
- (4月2日)
1. 学長予定選挙に関する件
 2. 教室臨時主管教授の委嘱に関する件
 3. 委員会委員の委嘱に関する件
 4. 入試に関する委員会委員の委嘱について
 5. その他
 - 1) 機器共同利用センター副センター長及び同運営委員会委員の委嘱について
- (4月9日)
1. 人事に関する件
 2. その他
 - 1) 次期動物実験委員会委員及び実験動物センター運営委員会委員の委嘱について
 - 2) 次期治験審査委員会委員長及び同運営委員会委員の委嘱について
- (4月23日)
1. 教授選考委員会に関する件
 2. その他
 - 1) 学則の一部変更に関する件
 - 2) 臨床教育助教授に関する件
 - 3) 附属病院安全管理委員会に関する件
- [大学院医学研究科委員会]**
- (2月5日)
1. その他
 - 1) ハイテク・リサーチ・センター長の委嘱について
- (2月21日)
1. 各種委員会に関する件

2. 研究生の願出に関する件
 3. 研究生(出向医) の願出に関する件
 4. その他
 - 1) COE申請準備状況について
- (3月5日)
1. 平成15年度大学院入学試験に関する件
- (3月19日)
1. 論文審査結果に関する件
- (4月2日)
1. 平成14年度研究生(出向医) の願出について
 2. 研究生(出向医) の継続願出について
 3. 研究生(出向医) の願出について
- (4月9日)
1. 研究生の願出について

主な行事日程表

5月1日から7月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 5月 7日(水) | 教授会・大学院医学研究科委員会
ナイチンゲール生誕祭 |
| 13日(火) | 理事会 |
| 14日(水) | 学位論文受付締切
ご遺骨返納法要 |
| 17日(土) | 市民公開講座 |
| 21日(水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 28日(水) | さつき会 |
| 31日(土) | 理事会・評議員会 |
| 6月 2日(月) | 永年勤続表彰式 |
| 4日(水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 7日(土) | 新入生歓迎会 |
| 9日(月) | 学位論文提出のための語学試験 |
| 10日(火) | 理事会 |
| 18日(水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 21日(土) | 市民公開講座 |
| 7月 5日(土) | 夏期休業(第1・3・6学年) |
| 8日(火) | 理事会 |
| 9日(水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |
| 12日(土) | 夏期休業(第2・4・5学年) |
| 21日(月) | 夏期休業(看護専門学校) |
| 23日(水) | 教授会・大学院医学研究科委員会 |

平成14年度下半期附属病院患者動態

昨年度下半期の患者動態は下記のとおりです。

(平成14年10月～平成15年3月)

	入院患者数	外来患者数	対前年度増減率%	
			入院患者数	外来患者数
H14.10	(857.2) 26,574	(2,226.8) 53,444	0.51	7.65
H14.11	(868.7) 26,061	(2,172.8) 49,975	0.66	8.31
H14.12	(804.5) 24,938	(2,352.8) 49,408	2.64	7.09
H15. 1	(765.5) 23,729	(2,266.0) 47,585	1.36	3.36
H15. 2	(870.9) 24,386	(2,268.7) 47,642	0.91	3.36
H15. 3	(858.3) 26,606	(2,254.8) 51,860	0.61	3.42
合計	(836.8) 152,294	(2,255.0) 299,914	0.27	5.63

()内は、1日平均患者数

* 外来患者数は、平成14年度より放射線科他科依頼数を減じている。

・平成14年度下半期入院関係稼働日数 182日(平成13年度 182日)

・平成14年度下半期外来関係稼働日数 133日(平成13年度 132日)

平成13年度・14年度(年間...1日平均)の動態

区分	入院		外来
	入院患者数	稼働率	
13年度	853.7人	85.2%	2,397.4人
14年度	838.5人	83.7%	2,268.5人

上半期(4月～9月.....1日平均)

区分	入院		外来
	入院患者数	稼働率	
13年度	868.3人	86.7%	2,387.7人
14年度	840.2人	83.8%	2,281.6人

下半期(10月～3月.....1日平均)

区分	入院		外来
	入院患者数	稼働率	
13年度	839.0人	83.7%	2,407.6人
14年度	838.8人	83.5%	2,255.0人

平成15年度附属病院臨床研修医

(66名...学内 52名、学外 14名)

平成15年5月1日現在の各科の臨床研修医数は以下のとおりです。

なお、昨年度は83名。

第一内科：16名 産婦人科：4名
 第二内科：5名 眼科：11名
 第三内科：4名 耳鼻咽喉科：1名
 精神神経科：2名 泌尿器科：1名
 一般・消化器外科：4名 放射線科：3名
 胸部外科：1名 麻酔科：3名
 脳神経外科：1名 形成外科：3名
 整形外科：1名 リハビリテーション科：2名
 小児科：2名 歯科口腔外科：2名

保健管理室からのお知らせ

この時期に針刺しが多発しています

多くの患者さんに接する機会の多い医療の現場は、いかなる部門にかかわらず、血液・体液曝露のリスクにさらされている環境です。なかでも針刺しの割合は多く、本院においても平成14年1月～12月の1年間で54件の針刺し・切創報告（エピネット報告書提出分）がありました。例年、新卒研修医・看護師入職後の5月～7月に多発しています。そして、熟練医師による手術中の報告も目立ちました。

針刺しの原因は、個人の不注意・過失と扱われてきましたが、今日では、個人の注意で防げる限界を超えて、鋭利器材を取り扱えばその頻度に応じて針刺しは発生すると認識されてきています。我々医療従事者が安全に医療行為に専念できるように、近年開発されてきている針刺し防止機能のついた器材を導入し、活用していく必要があります。そして、リキャップしないこと、廃棄容器を適切に使用すること（容器が一杯になるまで使用しない、使用後すぐに廃棄できるよう容器を準備する）、注射器をポケットに入れて持ち歩かないことなどを、今一度意識して針刺しを防止しましょう。

本院で針刺し・切創、あるいは血液・体液汚染を起こした場合の対処手順（事故直後から受診や検査・治療内容、手続きまで）を次ページに掲載しています。

針刺し・切創は“労働災害”として手続きします。他院で針刺しを起こした場合は、その施設（労災指定の施設であること）で労災申請の手続きをすることになります。しかし労災指定ではない医療機関に受診した場合は、受傷者本人が労働基準監督署で手続きを行うことになります。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H12年	5	0	5	2	5	9	1	0	7	3	1	0	38
H13年	0	0	0	0	8	3	7	7	2	4	3	2	36
H14年	3	7	0	4	5	8	7	2	8	4	2	4	54

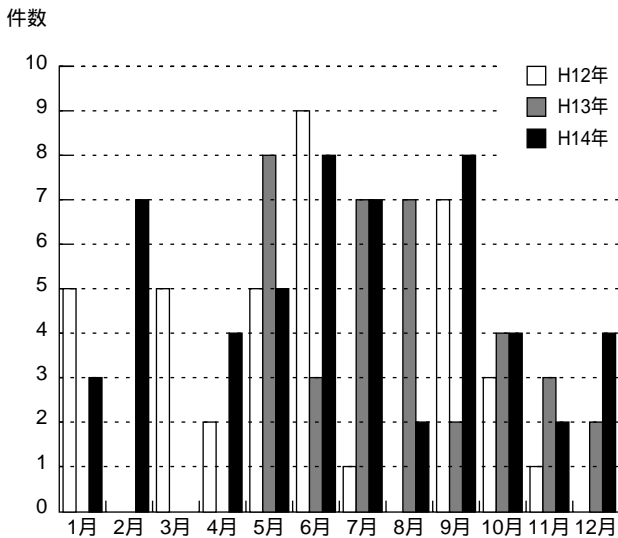


図1 月別事故発生件数

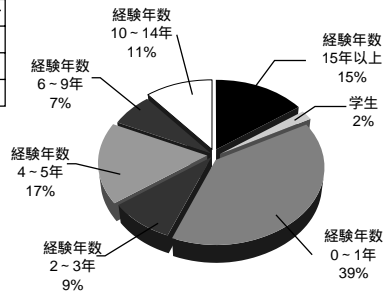


図2 経験年数別事故割合

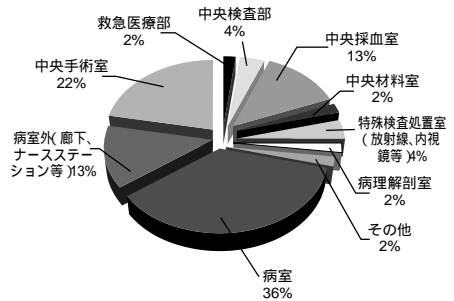
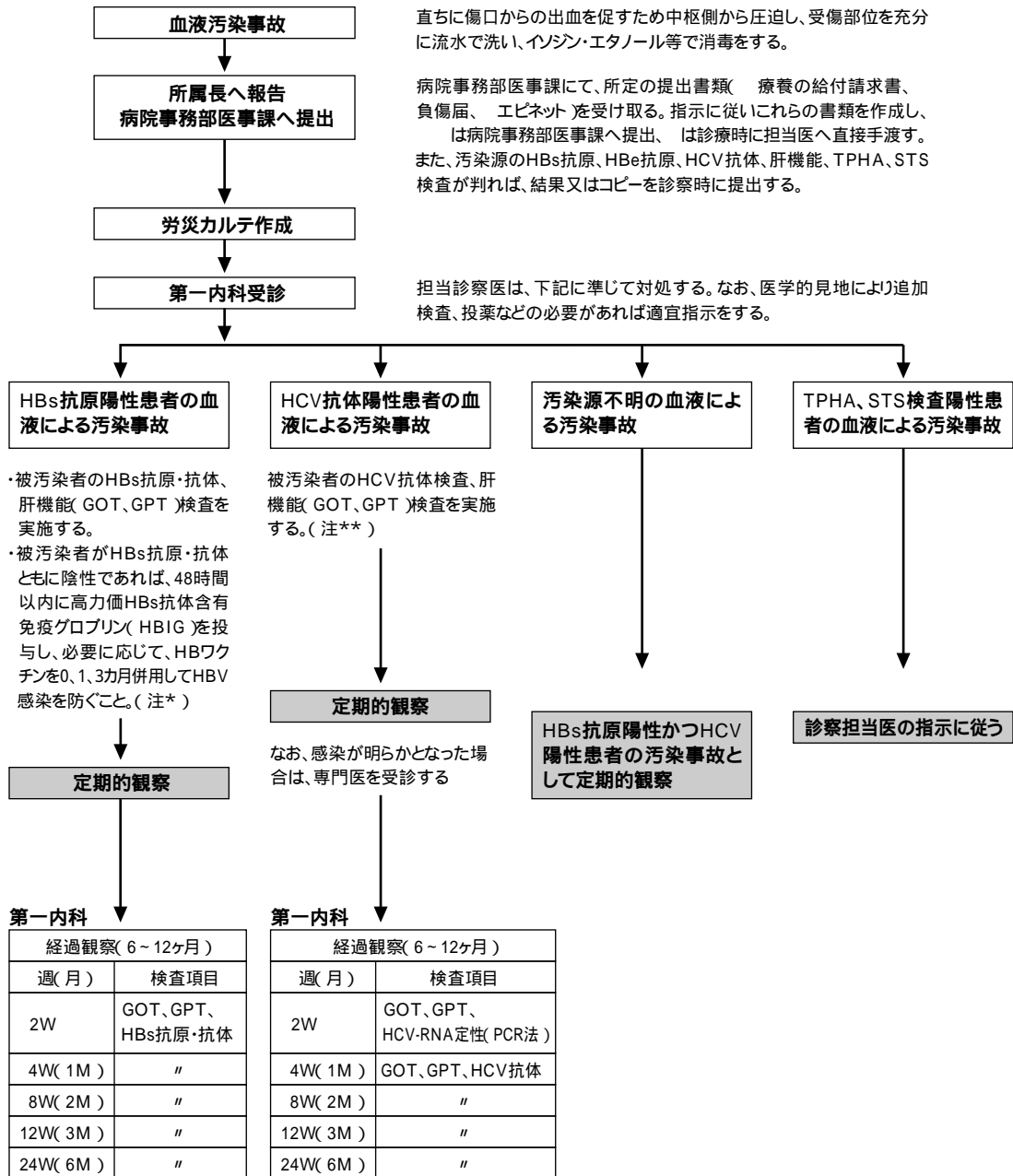


図3 事故の発生場所

針刺し・切創・血液汚染事故発生時の対処手順



注 *他の部署でのHBIGおよびワクチンの投与などは混乱を招くので避ける。

注** HCV汚染に対しては、特異的な予防法がないため、現状では事実を記録としてとどめ、経過観察を行う。感染予防に対してのインターフェロンの有効性は確立していない。副作用などの十分な理解のもとで、希望があればインターフェロンの投与も考慮する。

なお、感染が成立する可能性は、極めて低率(約1%)である。万一発症した場合には、治療(インターフェロン)も考慮するが、治癒率は高率(90%以上)である。発症しても30~40%が自然治癒する可能性がある。

以上の処置・治療は、原則として当事者(医療従事者)のコストは必要としません。

保健管理室からのお知らせ

電離放射線従事者健康診断について

電離放射線障害防止規則第56条に基づき放射線業務に常時従事する労働者で管理区域に立ち入るものについては、雇入れの際またはその業務に配置換えの際およびその後6ヶ月以内ごとに1回定期的に健康診断を行わなければなりません。

雇入れ・配置換え・前年1年間に受けた実効線量が5mSv以上被ばくした者の健康診断項目

- イ．被ばく歴の有無の調査およびその評価（問診票配布）
- ロ．白血球および白血球百分率の検査
- ハ．赤血球数の検査および血色素量又はヘマトクリット値の検査
- ニ．白内障に関する眼の検査
- ホ．皮膚の検査

前年1年間に受けた実効線量が5mSv以下の者の健康診断項目

- イ．被ばく歴の有無の調査およびその評価（問診票配布）

登録申請方法

放射線業務従事者登録の申請は病院で従事される場合RI検査室（病院1F）、研究で使用される場合は機器共同利用センター-RI実験室（第3研究館1F）に申請用紙がありますのでそれぞれの場所へ提出して下さい。その後保健管理室より健診の案内をしますので期日を守っていただき必ず受けるようにして下さい。健診を終了された方からルクセルパッチが交付されます。

労働基準監督署報告、医療監視

機器共同利用センター（RI実験室）において現在登録者295人を管理しており健康診断については保健管理室で実施管理をし、結果報告として6ヶ月ごとに1回労働基準監督署報告、年1回の保健所報告（医療監視）をしています。

平成14年度 健康診断結果

2002年度電離放射線従事者健康診断 血液検査受検状況(前期4-9月、後期10-3月) (新規・再登録)

部署	解剖学	医化学	法医学	内科学	内科学	内科学	一般内科科	脳神経外科	整形外科	神経精神医学	小児科学	耳鼻咽喉科学	泌尿器科学	放射線医学	産婦人科学	輸血室	検疫センター	看護部	総計	
前期	対象者数	2	0	1	2	3	3	1	13	11	1	2	1	4	14	2	2	1	3	66
	受検者数	2	0	1	2	1	2	1	11	5	1	2	1	2	8	0	2	1	3	45
	受検率	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	33.3%	66.7%	100.0%	84.6%	45.5%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	57.1%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	68.2%
	有所見者数	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	4	0	1	0	0	11
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後期	対象者数	2	1	1	3	6	4	1	11	12	1	2	1	5	6	2	0	1	3	62
	受検者数	2	1	1	1	3	2	0	3	4	1	1	0	3	2	1	0	1	2	28
	受検率	100.0%	100.0%	100.0%	33.3%	50.0%	50.0%	0.0%	27.3%	33.3%	100.0%	50.0%	0.0%	60.0%	33.3%	50.0%	0.0%	100.0%	66.7%	45.2%
	有所見者数	2	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	1	1	11
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計延数	対象者数	4	1	2	3	4	4	1	14	9	2	3	1	5	10	1	2	2	5	73
	受検者数	3	0	0	0	1	2	0	1	1	1	2	0	2	5	0	2	1	1	22
	受検率	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	7.1%	11.1%	50.0%	100.0%	40.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	50.0%	27.3%	32.9%
	有所見者数	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	1	1	11
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2002年度電離放射線従事者健康診断 被ばく歴調査受検状況(前期4-9月、後期10-3月)

部署	物理学	化学	解剖学	解剖学	生理学	医化学	薬理学	病理学	病理学	微生物	法医学	機器共同	内科学	内科学	内科学	一般化器科	
前期	対象者数	3	1	3	6	4	8	5	1	5	1	5	1	19	15	9	6
	受検者数	3	1	3	6	4	8	5	1	5	1	5	1	19	11	6	6
	受検率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	73.3%	66.7%	100.0%
	有所見者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
後期	対象者数	3	1	3	6	3	9	4	1	5	1	5	1	18	19	6	2
	受検者数	3	1	3	6	2	9	4	1	5	1	5	1	15	10	6	2
	受検率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	52.6%	100.0%	100.0%
	有所見者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計延数	対象者数	6	2	6	12	6	17	9	2	10	2	10	2	34	21	12	8
	受検者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受検率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	有所見者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

保健管理室からのお知らせ

部署	胸部外科学	脳神経外科学	整形外科	神経精神医学	小児科学	眼科学	耳鼻咽喉科学	泌尿器科学	放射線医学	産婦人科学	病態検査	中検	輸血室	救急医療部	看護部	合計	
前期	対象者数	1	13	40	8	9	1	1	18	64	25	2	1	1	3	11	290
	受検者数	0	4	9	8	1	0	1	16	64	25	2	0	1	2	11	229
	受検率	0.0%	30.8%	22.5%	100.0%	11.1%	0.0%	100.0%	88.9%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	100.0%	79.0%
	有所見者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
後期	対象者数	1	14	42	8	9	0	2	15	60	30	2	0	1	3	9	283
	受検者数	0	8	34	8	4	0	2	14	60	30	2	0	1	3	9	249
	受検率	0.0%	57.1%	81.0%	100.0%	44.4%	0.0%	100.0%	93.3%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	88.0%
	有所見者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計延数	受検者数	0	12	43	16	5	0	3	30	124	55	4	2	5	20	478	
	有所見者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	要治療者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

掲示板

特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診

実施日時 平成15年5月28日(水)~30日(金) 午前8時~午後3時30分

場 所 研究棟1階 第8会議室

* 対象者には事前に健診案内を配布します。

1回目B型肝炎ワクチン接種、追加ワクチン接種

実施日時 平成15年6月3日(火)、4日(水) 午後3時~4時

場 所 病院2階 中央採血室

* 対象者は4月に抗体検査を受けてワクチン接種を申し込まれた方(但し昨年3回のワクチン接種を受けた方は対象外)になります。 申し込み期限 平成15年5月20日(火)

* 2回目ワクチン接種は、平成15年7月3日(木)、4日(金)時間、場所は1回目接種と同様。

大阪医科大学俳句会（十二・一・二月）

強霜や合掌部落一戸づつ

塚本務人

びは湖線篠原駅裏笹が鳴る

今井雄介

春炬燵手妻使ひが種明かす

同

雪知らぬ国に生れて毛糸編む

中川一成

今日生きる包一杯に葱の山

梶野香代子

鍋のここわたしのコーナー春菊入れ

奥田筆子

初買はスルツト関西乗車券

吉田孝江

風花や構図なきまま和紙ちぎる

飯塚久子

転職や目鼻なくとも雪達磨

美濃 眞

節分や夜店に並ぶ大学門

和田 明

料峭や修正液にうすめ液

山崎隆司

小春日や九十日の処方出る

（投稿）宮脇芳美



投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町 2-7
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



今年のさくらの開花は例年並となりました。学内のさくらの名所は大学管理棟（役員室）南がわの池の辺りでしょうか。今年もみごとな花を見せてくれました。

さくらの花は咲いているときはもちろん、散るときの美しさに趣があります。

春の風に吹かれて、さくら花のひらひらと池に舞い落ちる姿は幻想的で、しばし現実を忘れてしまいます。

先年北西キャンパスから移した池の大きな鯉が悠然と泳いで、花びらにおおわれた湖面に薄墨色の波紋を残していきました。

季節はずで春から夏へ移ろいで、一瞬のできごとが今は昔のこととなって記憶の淵に沈んでまいります。

（大学管理棟さくら景色）

大阪医科大学学報 第56号

発行年月 平成15年5月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総務部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>